幌根室
チ除ク
鄕從道
扱手續ニ據
鎮臺
鄕從道
幌根室
チ除ク
鄕從道
鎮臺
徵兵看病卒
鄕從道
所在地ニア
チ以テ入營
シ第九條ノ
ル歩兵隊ニ
ニ在テハ其
取ルトキハ看
ム可シ
院長其熟否
在テハ聯隊
具申シ許可
キハ直チニ
等ニテ欠員
フモノトス
典生兵ノ部
第三教迄
帶具ノ用法
チ「看護卒
「看病卒」チ
チ除ク
税收入豫算
ノ決議チ經
割
百九十四圓
六錢三厘
下給料旅費
給
給

明治十七年六月二十五日　東京府知事芳川顯正代理
東京府大書記官銀林綱男

○東京府告示乙第百八號

市街清潔方施行ニ付テハ塵芥又ハ淤泥捨場ニ差支有之者ハ深川海邊新田百五十六番地鎌地ヘ投棄スヘシ此旨告示候事

明治十七年六月二十五日　東京府知事芳川顯正代理
東京府大書記官銀林綱男

敍任

○明治十七年六月廿四日

敍正四位　岩倉洗子

任宮内大書記官　侍從海軍中佐從五位勳四等　山口正定

任宮内少書記官　侍從從三位勳六等　高辻修長

時事新報

税法ノ未來ヲ想像シテ今日ヲ警ム可シ

我輩カ外國人ノ治外法權ニ就キ其害惡ヲ痛論シタルハ過般以來數日ノ社説ニ於テ看官モ其大概ヲ了知セラレタルヿト信ズ蓋シ害惡ノ箇條ハ一ニシテ足ラズト雖モ主トシテ論シタル所ハ治外法權ノ意味不分明ナルヨリシテ遂ニハ内外ノ奸商等カ法權ノ蔭ニ居テ我國ノ税法ヲ紊ルヿモアランカト未來ヲ豫想シテ今日ヲ警メタルモノニ過キズ扨其今日ヲ警ムルニ就テハ目下ノ實際ニ於テ聊カニテモ外國人ノ擧動ニ不都合アレバ之ヲ止メテ後來ヲ豫防スルヿ緊要ナル可シ我輩ハ本來外國人ヲ惡ム者ニ非ズ之ヲ惡マズトテ却テ我國内ノ論者ヨリ惡マルヽ程ノ次第ニシテ外國人ニ接スルニハ愈々益々打解ケテ情ヲ盡シ自由自任ニ我國ノ内部ニ入レテ之ヲ拒マザル其代リニハ外國人モ亦治外法權ナド云フ不條理ナル慣行ヲ廢シテ眞實ニ同等一樣ノ交際ヲ爲サンヿヲ祈ル者ナレモ彼レノ方ヨリ却テ我國ニ入ルヲ好マズシテ三十年前ノ舊物ヲ墨守シ居留地ノ一小區内ニ眠食シテ旅行規程十里ノ天地ニ消遙シ自カラ之ヲ甘ンシテ他ニ求ムル所ノモノナクンハ是亦是非ナキ次第ニシテ我レハ暫ク其爲ス所ニ任スルノ外ナカル可シ即チ我時事新報六月十日ノ社説ニ外人ノ旅行規程ヲ嚴守ス可キ旨ヲ論シタルモ彼レノ爲ス所ニ任シテ双方ノ約束ヲバ大切ニセントスルノ趣意ノミ、就テ又コヽニ些細ノ事ナガラ論ス可キハ外國人自用ノ車馬税ノヿナリ我國法ニ於テ馬車二匹立以上ハ年税三圓、一匹立ハ同二圓、人力車二人乘ハ同二圓、一人乘ハ同一圓ナリ之ヲ國税トシテ重子テ地方税ノ割合ヲ見ルニ東京府會ノ決議ニ營業馬車ナレバ國税ノ半額ヲ課シ自用馬車ナレバ國税ト同額ヲ課シ人力車ニテモ自用ノモノニハ三圓、營業乘馬ハ一圓、自用乘馬ハ三圓ヲ課スルノ法ナリ元來此車馬ニ課税スルモノハ之ヲ用ル程ノ者ナレバ赤貧ニ非ザル可キガ故ニ國用ノ一部分ヲ負擔シテ可ナリト云フ趣意ト又一方ニハ馬モ車モ往來ノ妨ヲ爲シ道路橋梁ヲ損害スルヿ多キガ故ニ之ヲ償ハシムルノ趣意ナラン然ルニ外國人ハ居留地ニ居リ其自用ノ馬車ニモ馬ニモ又人力車ニテモ曾テ税ヲ納メタルヿナシト云フ抑モ居留地トハ何レノ國ノ土地ナルヤ横濱ノ居留地ハ神奈川縣下久良岐郡ノ一部分ニシテ築地ノ居留地ハ東京府下京橋區ノ一部分ナリ此郡區ニ居ル者ガ何故ニ我國税ノ負擔ヲ免カルヽヤ啻ニ是等ノ居留地内ニ居ル者ノミナラズ東京ニアル各國公使館ニ使用スル車馬ニテモ我日本ノ公使ガ外國ノ都府ニ在テ車馬税ヲ拂フヿナラバ我都府ニ於テモ會釋ニ及ハズ之ヲ取立テヽ可ナリ外國ノ人ガ居留地ニ於テ樣々ノ業ヲ營ミナガラ其營業税ヲ納メザルハ我輩ノ常ニ不平ナル所ナレモ其營業タルヤ唯居留人等相互ノ營業ナラント強ヒテ之ヲ寬大ニ看過スルモ現ニ我々日本人ト外國人ト馬ニ騎シ車ニ乘テ同市同町ニ走リ轂相觸レ轂相撃チナガラ一方ハ無税一方ハ有税トハ如何ニモ不都合ナラズヤ畢竟コレマデハ外國人ニシテ車馬ニ乘ル者モ多カラズ人ノ目ニモ留ラザリシガ故ニ遺却セラレタルヿナラント雖モ自今外交ノ次第ニ繁多ナルニ從テ次第ニ注意ヲ加ヘ度キヿナリ

然リト雖モ治外法權ノ居留地ハ一種特別ノ資格ヲ有スルモノニシテ日本ノ法律ハ居留地内ニ於テ無効ノモノナリト云フ歟我輩ハ殘念ナガラ一歩ヲ讓リテ姑ク其言ニ從ヒ横濱ノ居留地、久良岐郡内ニ在ルモ神奈川縣廳ノ支配ニ非ズ、築地ノ居留地モ東京府ノ管轄ニ非ズトスレバ是非モナキ次第ニシテ之ヲ一區ノ邸地トシテ見ルヨリ外ナシ即チ居留地ハ外國人ノ私邸ナレバ其邸内ニテ馬ニ騎シ又馬車人力車ニ乘ルモ我々日本人ガ戲ニ邸内ニ車ヲ走ラシ又庭ノ池ニ舟ヲ浮ルモ舟車税ノ沙汰ニ及ハザルト同樣ニシテ手ノ付ケ樣モナキ次第ナレモ苟モ居留地ノ境ヲ踰ヘテ外ニ出テントスルヿアランニハ一歩モ之ヲ許ス可ラズ横濱ノ居留地外ハ純然タル神奈川縣廳ノ支配ニシテ日本國法ノ行ハルヽ處ナリ其道路橋梁ハ縣會ノ議決ニ由リ地方税ヲ以テ修繕スル所ノモノナリ其往來ニ群集スル者ハ日本國民ニシテ國法ヲ以テ保護スル者ナリ故ニ我國人ハ馬ニ騎シ車ニ乘テ多少ニ往來ノ妨ヲ爲シ又隨テ道路橋梁ヲ損スルヿアル代リトシテ至當ノ税ヲ納ルヿナレバ如何ニ外國人ハ一種特別ノ者ナリトテ他人ノ出金ヲ以テ作リタル交通ノ器械即チ道路橋梁ヲ無代價ニテ使用シテ多少ニ往來ヲ妨ルモ苦シカラズト云フ道理ハナカル可シ我々日本人ガ戲ニ邸内ニ用タル舟車ヲ公共ノ河海ニ浮ヘ道路ニ飛サントスルトキハ即刻ヨリ國税又ハ地方税ノ責ニ任セザルヲ得ズ左レバ假ニ外國人ノ私邸ト視做シタル居留地ヲ限リトシテ其所用ノ車馬ヲシテ一歩モ外ニ出ルヿヲ得セシメザルハ當然ノ理ニシテ若シモ不同心ナラバ成規ノ如ク納税ノ義務ヲ負ハザル可ラズ即チ居留地ノ境ニハ無形ノ鐵柵ヲ構ヘテ之ヲ嚴ニスルヿ過般ノ社説ニ記シタル上野高崎間ノ鐵道ニ於ケルガ如クス可キナリ

我輩竊ニ案スルニ從前外國人ガ車馬ノ税ヲ拂ハザルハ必ズシモ治外法權ノ力ニ依頼シテ税金ヲ貪ルト云フ程ノ意味ニモ非ザル可シ從前日本ノ税法ハ偏重偏輕甚タ不釣合ナリシヨリ近年次第ニ改正ヲ加ヘテ其整頓スルニ從ヒ新ニ課税スルモノモ少ナカラズ即チ車馬税ノ如キハ新課税中ニ屬スルモノニシテ其法ヲ實施スルノ際ニ外國人ヲバ遺却シタルヿナラン其証據ニハ遊獵税モ近年ノ新法ナレモ是レハ外國人モ内國人モ同樣ノ税ヲ拂ヒ曾テ其苦情ナキヲ見テ知ル可シ左レバ獵税ハ當時我政府ノ筋ニテ外國人アルヿニ心付キシガ故ニ内外一樣ニ行ハレ、車馬税ハ外國人ヲ忘レタルガ故ニ今日マデ實施セザルノミノヿナラン誠ニ深キ意味モナキヿナレバ必ズシモ外國人ニ向テ談判ヲ開ク程ノ大事件ニ非ズ唯一應ソノ趣ヲ通知シテ直ニ課税シテ差支ナキヤ明ナリ全体府縣會ナドハ地方税ノ課法ニ就テ樣々議論シナガラ明白ナル税源ヲ看過シテ是レマデ外國人ヲ忘レタリトハ粗漏ナルモノト云フ可シ

雜報

○開業式行幸　豫て前號に記載せし如く昨日は日本鉄道會社の開業式を執行せしに付　聖上には午前六時五十分赤坂仮皇居を御出門遊され御陪乘は徳大寺侍從長供奉は伊藤宮内卿、香川同少輔、寺島同御用掛、伊東、池田の兩一等侍醫、藤波、太田、富小路、三條西、小西、岡田の六侍從、堤兒玉の兩大書記官其他同省の官吏數名にして又御列外には清國公使黎庶昌、米國公使ビンガム、獨逸公使デンホフ、佛國公使サンキコウサツの諸氏にて御順路を半藏門より一ッ橋御成道(此間鉄道馬車通行停止)を經て七時三十分御着輦在らせ給ひければ同會社員一同は南縁門の左右に整列し敬禮の式を行ひ夫より吉井同會社長れ御先導にて便殿へ入御遊ばされ同時に陸海軍の奏樂あり又數本の狼煙を打揚たり御先着ありし有栖川、小松、伏見、北白川の四親王、山縣、山田、大木、西鄉、川村、佐々木、福岡、松方、井上の九參議、伊達修史館副總裁、大迫警視總監其他各國公使等にて三條太政大臣には若御に後れて參着せり其他近衛士官西島大尉、中院中尉及巡查部長、株主(十株以上)各新聞記者等にて汽車の數は十四輛其中央に御料の汽車を挾みたり斯くて發車の刻に先ち　聖上には再び吉井社長の御先導にて御料の汽車に召させ給ひ有栖川、小松の兩宮、徳大寺侍從長、藤波侍從等御陪乘せり頓て玉座に着せ給ひぬれば同社長以下首唱發起人及社員重立たる人々に謁見仰付られ名簿を奉呈し同八時陸軍樂隊今度新らに調製したる日本鉄道の樂譜及海軍の樂を車中にて奏すると同時に亟々轟々の響きと共に一條の煙痕を留め先上野れ停車場を發車したり又樂隊と各驛通車の都度車中にて奏樂せり偖上野停車場れ裝飾は大なる綠門を樅の葉にて造り其が上には杉の葉にて同會社の徵號を造り之れ國旗を叉字形に揭げ其他同社の小旗數旒を建連ね式場入口の上には杉葉もて一大扁額を設らひ黃菊の花にて鐵道開業式の五文字を見はし又屋上にも數十本の小旗を建て其結構美麗なること人の目を驚かしたり又夜會の立食堂なる堂上の正面には同會首唱長なりし故岩倉贈太政大臣の肖像を揭げ兩側には花菖蒲を栽し數多れ括花を挿みて電氣燈數個を裝置せり其外式場前の巨大なる花籠れ貴顕にて造り其周圍壹丈五尺なりと又式場構への往來を隔て西の明地には遊化路、遊